

平成24年度フォローアップ結果のポイント

計画期間:平成22年3月～平成27年3月(5年1月)

1. 概況

当市では、平成22年3月に計画の認定を受け、基本計画に掲げた各種事業に取り組んでいる。その結果、ハード事業では、民間活力の活用によりマンション建設が進み居住人口の増加が図られ、天神三丁目地区における大型商業施設「アリオ」開店により商圈人口の拡大につながっている。さらに大手門地区では複合型老人福祉施設「上田大手門」開所、セブンイレブンの本部直営店(上田城大手門店)の開店により地域の活性化、地域の安心安全につながっている。また、松尾町商店街振興組合では、経済産業省の地域商業活性化事業補助金を活用し、空店舗を活用した食のコミュニティスペース・人材育成事業「松尾町フードサロン」の運営に取り組んでおり、商店街の主体的取組みとして、市としても期待し支援を行っている。

また、ソフト事業では、商店街を対象にした市の「テナント出店支援金」等にぎわい創出の取り組みが概ね計画通りに進んでおり、基本計画に掲載された総事業66事業のうち、52事業が実施中又は完了し、進捗率としては約79%となっている。

目標指標である「歩行者通行量」の改善には至っていない状況だが、「居住人口」については、すでに当初の目標を達成し、さらなる増加が見込まれる。

このうち、「歩行者通行量」については、当初見込んでいたマンション「サーパス丸掘」「サーパス本町」、「アーバンシティ上田中央」や新興住宅地「天神の杜」への居住者による街なか回遊が思いほか少なかったこと、当初予想していなかった店舗の閉店・撤退が相次ぎ、中でも「ミスタードーナツ上田ショップ(海野町)」「マクドナルド上田駅前店」のチェーン店の他、地元顧客を抱えたハルタやアニューといった店舗、また、上田駅前のイトーヨーカ堂の移転といった減少要因が増加要因を大きく上回ったことなどが減少理由と考えている。

今後、マンションへの入居者に対するアプローチを強化し、街なかへの回遊につなげるとともに、平成26年度の交流・文化施設完成と、長野新幹線の北陸延伸を控え、中心市街地の魅力再生を図り、さらなる活性化を図ってまいりたい。

2. 目標達成の見通し

目標	目標数値	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める。(生活快適都市)	中心市街地の居住人口	6,897人 (H20年)	7,059人 (H26年)	7,187人 (H24年)		
市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。(域内交流)	中心市街地の歩行者通行量	22,404人/日 (H20年)	24,257人/日 (H26年)	18,923人/日 (H24年)		

注) 取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

### 3. 目標達成見通しの理由

**居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める。(生活快適都市)**

**「中心市街地の居住人口」**

- ・ マンション等建設により、平成 24 年度の中心市街地の居住人口は目標を既に上回った。
- ・ 今後、入居者募集が始まる60優良建築物等整備事業(海野町地区)事業は、戸数 21 とテナント 2 店舗が入る。さらに、上田駅の近くで戸数 55 のマンションが新規に建築予定である。
- ・ これらにより、すでに目標は達成しているが、さらに居住人口の増加を見込んでいる。

**市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。(域内交流)**

**「中心市街地の歩行者通行量」**

- ・ 東日本大震災以降、商店街に対しコミュニティの担い手としての役割が期待されていること等を踏まえ、これまで街なか居住者が増加していながら通行量増加につながっていないのは居住者へのアプローチが不十分であったと推察し、商店街が主体になって、マンション等への居住者も含め周辺住民のニーズ把握を行い、住民ニーズに応えた商店街づくり、店舗づくりを促すこと、「信州上田街なかサロン de 講座」、「まち歩き事業」及び「真田十勇士スタンプラリー」を実施し街の魅力再発見の機会を提供すること、子ども、子育て中の母親、お年寄りにとって安心してまち歩きができる情報を集め「街なか歩きマップ」にまとめ発信すること、街なかの空店舗情報を集め、商店街にとって望ましい業種や商業者を積極的に誘導し、街の魅力を高め、更なる活性化を図ることなどによって、目標達成は可能と考える。

### 4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

### 5. 今後の対策

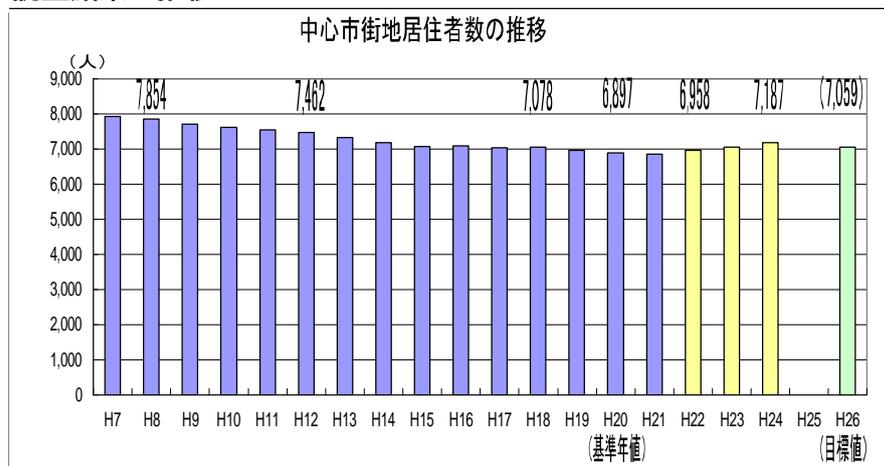
- (1) 今後も引き続き、基本計画に位置付けられた「テナント出店支援事業」の継続、「街なか駐車場整備事業」の実施、「公共サイン整備事業」「交流・文化施設整備事業」を推進し、街なかのにぎわいの創出及び街なか居住の推進を図り、活性化の環境整備を図る。
- (2) 一方、基本計画掲載事業以外でも、「信州上田街なかサロン de 講座」、「まち歩き事業」及び「真田十勇士スタンプラリー」等の実施により、街の魅力発見・発信をするとともに、子ども、子育て中の母親、お年寄りにとっての情報を集め、「街なか歩きマップ」にまとめ、安心して歩ける街歩き情報を発信するなど、商店街への回遊性を高めることができる事業や各個店の魅力を高めることにつながる事業で、商店街を主体者として直ちにできることは積極的に支援・実施することにより、目標達成を目指す。

・目標毎のフォローアップ結果

「居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める。(生活快適都市)」

「居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P44～P46 参照

1. 調査結果の推移



年	(位:人)
H20	6,897 (基準年値)
H21	6,846
H22	6,958
H23	7,045
H24	7,187
H25	
H26	7,059 (目標値)

調査方法;住民基本台帳人口(毎年10月1日現在:中心市街地区域)

調査月;平成 24 年 10 月時点調査

調査主体;上田市

調査対象;中心市街地区域内の居住人口

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・24 天神三丁目住宅供給事業 (積水ハウス株式会社)

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	上田駅からの徒歩圏にある、JT 上田工場跡地に、良質な住宅を供給する事業であり、居住満足度の高い住宅を提供し居住人口増加を図る。
事業効果又は進捗状況	居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、130 戸の戸建て住宅が建設され約 300 人( 130×90%×2.52 人/戸)の人口増加につながった。

・【追加】62 中央一丁目共同住宅供給事業 (民間事業者)

事業完了時期	【済】平成 23 年度
事業概要	中心市街地の中央一丁目における共同住宅供給事業であり、居住満足度の高い住宅を供給するもの。「サーパス本町」A = 5,853 m <sup>2</sup>
事業効果又は進捗状況	居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、分譲マンション 69 戸の供給が図られ、約 70 人( 69×50%×2 人/戸)の人口増加につながった。

・【追加】60 優良建築物等整備事業(海野町地区) (株アライ)

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	中心市街地の中央二丁目(海野町商店街)の空店舗を建替え優良賃貸住宅を整備し、良質な住宅を供給する事業

<b>事業効果又は 進捗状況</b>	居住満足度の高い住宅を提供できることから、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、賃貸マンション21戸の供給により、約20人( $21 \times 50\% \times 2 \text{人/戸}$ )の人口増加が見込まれ、1階には2～3のテナントがあり、店舗出店により商店街の連担性が確保される予定である。
------------------------	---

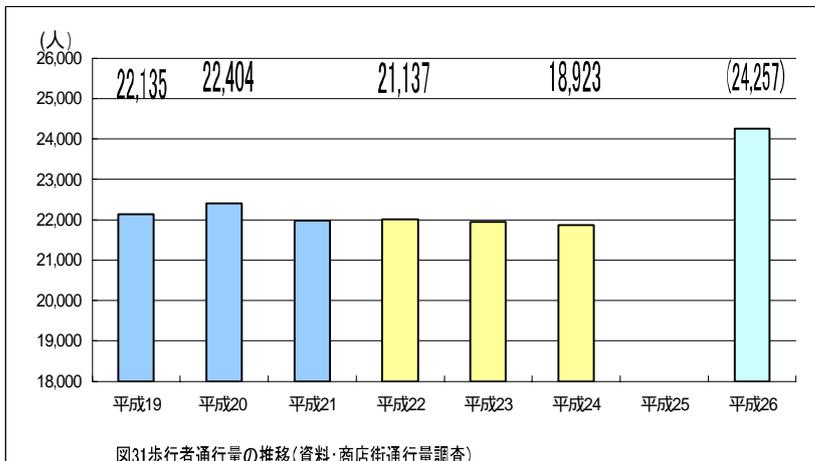
### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 民間事業者による分譲マンション等建設により、平成24年度の中心市街地の居住人口は計画どおり162人増加した。
- ・ 今後、上記、60優良建築物等整備事業(海野町地区)事業で入居者募集が始まるほか、上田駅の近くで戸数55のマンションが建築予定であり、約50人(  $55 \times 50\% \times 2 \text{人/戸}$  )の人口増加につながる。
- ・ 現在のところ、特段の人口減少要因もないことから、平成26年度での目標達成は可能であると考ええる。

- ・目標毎のフォローアップ結果「快適で便利に多くの人が住むまち」
- 「市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。(域内交流)」

「歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P46 ~ 50 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(位:人)
H20	22,404 (基準年値)
H21	21,979
H22	21,137
H23	19,538
H24	18,923
H25	
H26	24,257 (目標値)

調査方法;商店街歩行者通行量調査(毎年度10月平日実施)

調査月;平成24年4月(10時~20時の10時間)

調査主体;上田商工会議所

調査対象;歩行者、自転車、バイク、自動車の通行量(平日一日)

地点;以下15箇所

調査地点		
第1 原町一丁目	瀬川園	木村陶器店
第2 中央一番街北	カワイ	あぶかつ
第3 中央一番街南	だいこくや	宮沢鯉節店
第4 松尾町北	ラブ・ファンファン	藤岡薬局
第5 松尾町南	飯島商店	武重ビル
第6 駅お城口広場西	よろづや前	
第7 海野町西	ポケットパーク	丸陽ビル
第8 海野町	海野町会館	白井信子美容室



### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・【追加】<sup>63</sup> 大手門地区商業施設設置事業 (セブンイレブン)

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	中心商店街の中央交差点にコンビニエンスストアが本部直営店を出店。地域の要望を入れ、景観にも配慮した店舗の外観とし、戦国武将「真田」物産販売、観光情報発信、安心・安全の場の提供、街なか回遊にもつながる店舗を設置。
事業効果又は	商店街としての連続性、観光物産の扱い、安心・安全、地域と一体となっ

進捗状況	た賑わい作りなどを図り、「中心市街地の歩行者通行量」の増加、中心市街地の活性化につながっている。
------	--

・<sup>38</sup>テナント出店支援事業（上田市）

事業完了時期	【実施中】平成 26 年度継続
事業概要	商店街の空き店舗への誘致活動を支援するため、商店街の誘致に応じ商店街に出店した者に対し改修費 1/3(上限 150 万円)を補助
事業効果又は進捗状況	商店街の活動を支援するとともに、商店街の空き店舗の利活用推進を図ることは、地域活力の向上を図り、「中心市街地の歩行者通行量」の増加につながる。H21 年度 5 件、H22 年度 4 件、H23 年度 4 件、H24 年度 4 件合計 17 件が新規出店。

・【追加】<sup>61</sup>空店舗を活用した食のコミュニティスペース・人材育成事業（松尾町商店街振興組合）

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	松尾町商店街振興組合が経済産業省お「地域商業活性化事業補助金」を活用し、空店舗を活用した「食のコミュニティスペース」の設置・運営を行い、各種教室の開催やキッズスペースの設置等により、子育て世代等来店者数の増加を図る事業。
事業効果又は進捗状況	商店街の主体的活動により、商店街が地域のコミュニティの場を提供することにより、商店街の賑わいづくりを図ることは、地域活力の向上を図り、「中心市街地の歩行者通行量」の増加につながる。

・【追加】<sup>66</sup>真田十勇士モニュメント設置事業（上田市）

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	上田城を築き、池波正太郎氏の代表作にも描かれ、全国的にもファンの多い真田氏。その家臣として、『立川文庫』やNHK人形劇、また最近ではアニメ『戦国BASARA』でも人気の高い真田十勇士のモニュメント 10 体を、「財団法人自治総合センター助成(宝くじ助成)」により制作し、中心市街地商店街の各所に設置することで、街なか回遊促進を図る。
事業効果又は進捗状況	真田十勇士のモニュメント 10 体を中心市街地商店街の各所に設置することで架空のヒーローに遭える街として、子どもたちに夢と希望を与えとともに、商店街や市民団体が実施する「真田」関係事業とも連携し、街なか回遊促進を図る。さらに、商店街及び市民団体で組織された実行委員会が主体となりスタンプラリー等利活用により、「中心市街地の歩行者通行量」の増加につながる。

・ 交流・文化施設整備事業（上田市）

事業完了時期	【実施中】平成 25 年度
事業概要	社会資本整備総合交付金を活用し、市民交流スペースや大小のホール、市民ギャラリー、常設展示場からなる交流・文化施設を中心市街地の「JT」開発地において建設。
事業効果又は進捗状況	「交流文化施設」設置は、地域や世代を超えた新たな交流と活力を生み出すとともに、伝統文化の継承と新たな市民文化の創造に取り組むことで、都市の魅力を高め、「中心市街地の歩行者通行量」の増加につながる。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 街なか居住者は増加しているが、歩行者通行量増加につながっておらず、大変厳しい状況ではある。
- ・ これは、商店街からの居住者へのアプローチが不十分であった推察し、以下の事業を積極的に展開し歩行者通行量増加につなげ、中心市街地の活性化を図りたい。

商店街が主体になって、マンション等への居住者も含め周辺住民のニーズ把握を行い、住民ニーズに応えた商店街づくり、店舗づくりを促すこと

「信州上田街なかサロン de 講座」、「まち歩き事業」及び「真田十勇士スタンプラリー」を実施し街の魅力再発見の機会を提供すること

子ども、子育て中の母親、お年寄りにとって安心してまち歩きができる情報を集め「街なか歩きマップ」にまとめ発信すること

街なかの空店舗情報を集め、商店街にとって望ましい業種や商業者を積極的に誘導し、街の魅力を高め、更なる活性化を図ること

#### 十勇士デザイン

①猿飛佐助



②霧隠才蔵



③海野六郎



④三好清海入道



⑤三好伊(為)三入道



⑥望月六郎



⑦真十蔵



⑧根津甚八



⑨穴山小助



⑩由利鎌之助

